

経営比較分析表（令和5年度決算）

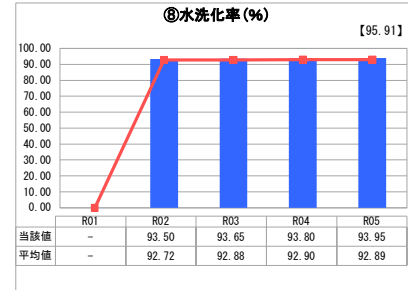
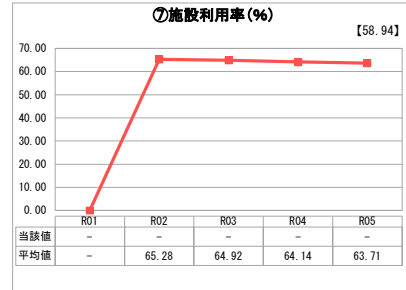
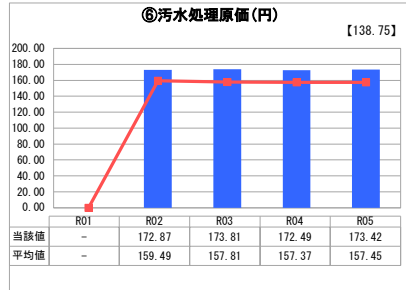
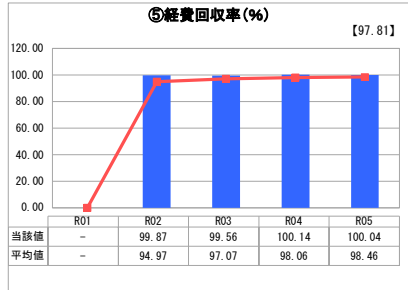
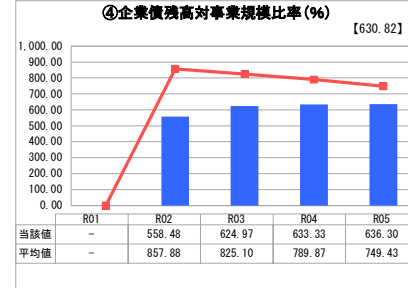
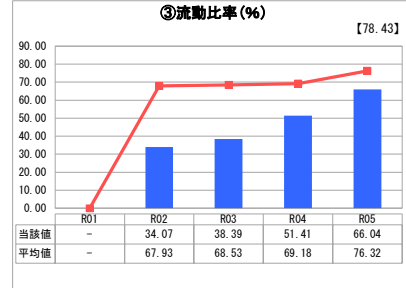
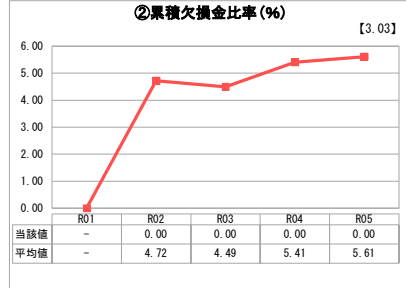
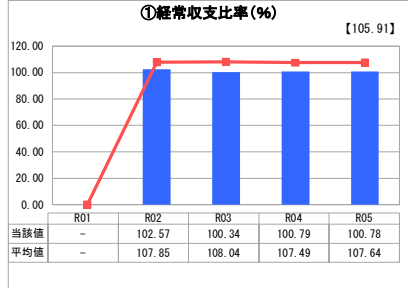
山形県 東根市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	64.27	92.48	84.66	3,300

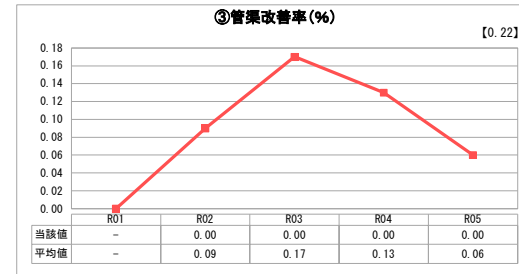
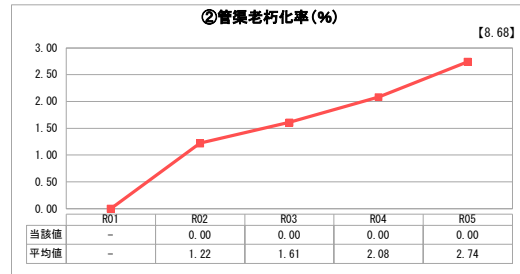
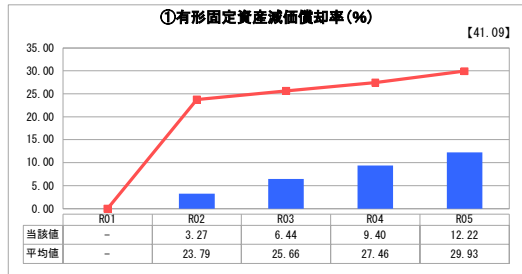
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
47,830	206.94	231.13
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
43,980	17.17	2,561.44

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度より地方公営企業法を適用したため、令和2年度以降の数値となっています。

「①経常収支比率」
前年度比0.01ポイント減の100.78%であり、100%を超えていることから経営の安全性は確保されています。

「③流動比率」
1年以内に支払わなければならない負債を賄っていないことを示しているが、負債の多くは建設改良費に充てた企業債が占めています。今後、企業債償還金は徐々に減少する予定であることから、流動比率についても増加する見込みです。

「④企業債残高対事業規模比率」
類似団体平均と比較して低い水準にあり、今後も引き続き償還の財源確保に努めます。

「⑥汚水処理原価」
有収水量が増加傾向にあるものの、前年度比0.93円増の173.42円となっている。今後、維持管理費の削減、有収水量の増加を図ることで汚水処理原価を減少に努めます。

「⑧水洗化率」
類似団体平均と比較しても大きな差はなく、安定した使用料収入を図るため、今後も継続的に普及啓発による水洗化率の更なる向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

昭和62年に供用開始してから30年を迎え、当時敷設した管渠を中心に設備が老朽化してきています。これに対し、平成26年度より管渠の改修工事（長寿命化工事）に着手しています。

また、今後、管渠更新に本格的にシフトしていくことを見据え、令和元年度にストックマネジメント計画を策定し、老朽化した施設の改修・更新を行っております。

全体総括

本市公共下水道事業では、令和2年度から地方公営企業法の適用を行い、同年度中に経営戦略の策定も実施しました。

今後、人口減少や節水型社会への移行により使用料収入の増加は見込めない状況であります。将来にわたり事業を安定して継続するためには、今以上に公営企業として高い質での財政マネジメントが求められます。

また、長期的な視点に立った施設の維持管理や更新等に取り組み、経営基盤の強化を図っていく必要があります。

さらに経営戦略に基づき、継続的な進捗管理を行い成果を検証しながら、適正な財源の確保と投資に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。